

地域コミュニティの活性化に対するご意見・ご要望等について

ご意見・ご要望等①

町内の役員をされていて行政の危惧している状況に直面しているところです。

役員や活動参加者の高齢化、減少、若年層の関心の低さ等で町内活動が危機的になっています。とりあえずは各行事毎に各戸に声をかけて参加を促すようにしています。が、私個人としては、SNS でも利用して若い人達に知ってもらいたいと思っています。また、町内活動の認識度をアンケートでも実施して知りたいと思います。

ご意見・ご要望等②

正直なところ、自分も自治会などの行事には参加はほとんどしたことがありません。役員の方々に任せてしまっていることが多いです。

コミュニティ活性化の案としては、

- ・会に参加したら有料ゴミ袋をプレゼントする。
- ・高齢者との繋がりや「子育てサロン」のような場を作る。高齢者の方々が一緒に遊んでくれる空間（会館などで行う）で、週1くらいで。
- ・その地区の小学校でお祭りのような行事をつくる。自然と3世代で参加するようなイベント「地域運動会」のような。→または、自治会対抗で競技場にて行う。（景品あり）

ご意見・ご要望等③

岩見沢市における「活性化した地域コミュニティ像」について、もう少し明確な定義が必要ではないだろうか。条例によれば「コミュニティとは人と人との多様なつながりを基礎として、共通の目的を持ち、まちづくりに関して主体的に活動する団体」をいうとある。しかしながら、現代は地域コミュニティに属さなくてもある程度は生きていける時代となっており、地域コミュニティに属する、また地域コミュニティを活性化させる必要性を明確に提示しない限り、関心は低下する一方ではないだろうか。同じく、コミュニティが果たす役割についても具体的な事例がほしい。

人と人とのつながりは多様になり、必ずしも「対面する」「集まる」だけではなく、今流行りの SNS のように、顔が見えないからこそつながっているというタイプも生まれている。プライバシーを守ることと、コミュニティの成立には相容れない事項も多くある。また、いわゆるコミュニケーションをとること得手不得手、好悪も人によって全く違う。以前は（生活するためにも）有無を言わずコミュニティ参加であったが、現代では強制力はほとんどない。

従って、すでに従来型の「地域コミュニティ」の活性化は難しいのではと考える。

ならば、団体ではなく、個々人でまちづくりに参加できるシステムも考えてみる必要があるだろう。個々人のまちづくり活動の総体を以って地域コミュニティとみなしてみる、ということになる。

世の中には、静かに平穏に生活を送ればそれでよいという人々も多くいる。そのような人々にしてみれば、無理に活動や行事に参加を促されるということは酷なことであろう。それでも、少なくとも暮らしやすいまちを望むだろうし、加えてはおそらく地域に貢献したいとも考えているのではないだろうか。一人でも、家の中からでも、さらにはニートでもまちづくりに参加できるような仕組みを今後考える必要があるのではないだろうか。

難しい課題ではあるが、それが「新たな」まちづくりに繋がり、「コミュニティ」を作るきっかけになるのであれば、検討する価値はあると考える。

ご意見・ご要望等④

地域コミュニティといえば、町内会・自治会（「町会」と略する）が真っ先に思い浮かぶが、その実態は苦境に立たされていることは周知の事実である。

- ・役員（世話人）のなり手がいない。
- ・地域によっては住民全体の高齢化と人口減により、町会活動が難しい状況もある。
- ・その状況の中で、地域コミュニティとして町会に加入していない住民を取りこんだ活動を町会ができるのか？ と疑問に感じる。

そこで町会においても抜本的な選択と集中、スクラップ・アンド・ビルドを行い効率的で持続可能な活動への変革が必要と考える。

大規模改革として

■町会が担っている公的業務のスクラップ

- * 広報の全戸配布を市が行う。（宅配業者等への全面委託）

市は、広報配布手数料を廃止。

- * 街路灯の電気料金の町会負担（半額）を止めて、市が全額を負担する。町会による街路灯維持管理は継続。

市は、行政事務連絡事業を廃止。

- * 地域の公園管理の再委託を推進する。（町会から企業・福祉団体などへの委託）

- * 敬老事業の更なる見直し

※市としてはある程度、経費のバランスを考える必要がある。

■ビルドまたは強化発展

町会は住民ニーズに対応した活動に集中する。

- * 高齢者対策として

独居・高齢者家庭の安否確認と孤立防止のため、声掛け活動、サロンの設置・運営、敬老事業の見直しなど。

- * 生活環境の維持・改善として

自主排雪の推進、緑化（オープンガーデン、薔薇の町）、ごみ処理・リサイクル（ごみステーションの管理、啓発ほか）

- * 子育て支援として

短時間の託児事業や寺子屋（児童館との連携）、私設文庫など

※上記のとおり具体的な取組は様々考えるが、与えられるものではなく、その地域で生み出すことが最も重要であろう。

ご意見・ご要望等⑤

この委員会に参加させていただき、岩見沢市がまちづくりのためにたくさんの事業などを行っていることが分かり、大変勉強になりました。

実際子どもがいる主婦の方で、専業主婦の方はあまりおらず、市が主催する講演会は、日中に設定されていることが多いので、興味があっても出席できないことが多いのではないかと思います。誘う方もなかなか誘いづらく感じます。

また、なかなか地域単位でのイベントは実施できないので、（準備などが大変と思いますが）市での親子のコミュニケーションが図れるようなイベント（例えば岩見沢公園で焼き肉大会やキャンプとか）があればよいかと思いました。